

登別中学校 第4回学校適正配置に関する地区別検討委員会

会 議 次 第

日時 令和5年4月12日（水）18時00分
場所 登別市観光交流センターヌプル（2F）
多目的室A

1. 開会

2. 教育長あいさつ

3. 報告事項

(1) 教育環境部会の議論のまとめについて

(2) まちづくり部会の議論のまとめについて

4. 意見交換

5. 閉会

教育環境部会における議論のまとめ

1. 教育環境部会の位置付け

登別市教育委員会は、令和3年8月に、「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」を策定し、今後35年間にわたる市内小中学校の配置のあり方を示した。このグランドデザインにおいて、登別中学校については、第1期（令和年度～7年度）中に、幌別中学校と統合することが想定された。

こうした動きを踏まえて、登別中学校区では、保護者や地域住民有志により、「登別中学校の学校適正配置に関する地区別検討委員会」を組織し、登別中学校の今後のあり方や統合の是非に関し検討を進めてきた。

さらに令和4年4月以降は、委員会の下に2つの部会（教育環境部会／まちづくり部会）を設け、それぞれの観点から検討を行ってきたが、このうち教育環境部会では、『子どもたちの教育環境』という観点から、子どもたちにとって、どのような形で教育の場を確保していくのが望ましいのかということを一に検討を進めてきた。

2. 教育環境部会における議論の経過

登別中学校は、1学年1クラスの状態が続き、さらに一部の学年では1クラス20人に満たない状態となるなど、学校規模、学級規模の両面で、登別市教育委員会による規模の目安（※）を下回る状況が続いている。

このように外形的には小規模化が相当程度進んでいると言わざるを得ない状況であるが、『子どもたちの教育環境』を一に登別中学校の今後のあり方を検討するためには、他校との統合ありきではなく、まずは学校小規模化のメリットとデメリットを整理し、同校の置かれた状況を検証する必要がある。

このため、教育環境部会では、地区別検討委員会で実施してきた意見交換会等の結果を参考にすることはもちろん、部会として学校統合を経験した教員を招くなど、各方面との意見交換を行い、その結果を基に議論を重ねてきた。

※登別市教育委員会では、学校規模については、小学校で1学年1クラス以上、中学校で1学年2クラス以上、学級規模については、1学年1クラスの場合には1クラス20人以上をそれぞれ目安としている。

①意見交換会等の結果について

地区別検討委員会や本部会で実施してきた意見交換等の結果は次のとおり。

●保護者との意見交換会（地区別検討委員会主催／令和3年12月16日開催）

登別小学校児童及び同中学校生徒、未就学児童の各保護者を対象に意見交換会を実施した。意見交換は、地区別検討委員会委員から参加者への質問形式で行った。委員の質問に対する参加者の意見は次のとおり。

（質問）登別中学校を幌別中学校に統合すること自体をどう考えているか？

回答① 地元で中学校が無くなることに抵抗感がある一方、今後、生徒数が減少していくことを考えれば、避けられないものとも理解しており、複雑な心境である。

回答② 子どもが減少していく中であっては仕方ない部分があるのも理解しているが、地元の中学校を無くすことについては基本的には反対であり、何とか残して欲しいという思いである。

回答③ 大人数の中で様々な人に関わりながら学んでいける環境が必要と思っているので、統合には賛成である。

（質問）仮に幌別中学校と統合になる場合の懸念や不安について聞かせて欲しい。

回答① 子どもの教育環境を考えれば統合には賛成だが、地域から中学校が無くなることにより新たな居住者が居なくなってしまうことを懸念している。

回答② 子どもを見ていると、非常に視野が狭いと見えさせられることが多く、統合には賛成であるが、幌別中学校までの通学手段などについて心配している。

回答④ 子どもたちが何年後にどの学校に行ってしまうというようなことをイメージしながら子育てできるように、早い時期に見通しを立てられるようにして欲しい。

（質問）規模を大きくするメリットが本当にあるのか疑問を持っている。そうした意味で、小規模校のメリットとデメリットをどう考えているかお聞きしたい。

回答① 小学校に関しては、地域色豊かな環境の中で教育を受けることはメリットだと思っている。一方で、中学校に関しては、高校進学を控える中で、環境変化に備えるという意味でも、ある程度大きな集団を確保することが必要だと思う。そうした意味で、小学校については小規模校のメリットが勝り、中学校については統合のメリットが勝るのではないかと考えている。

回答② 登別小学校の家庭的な雰囲気の中で子育てを行いたく引っ越して来たが、実際に子どもたちを見ていると視野が狭い部分があり、もう少し大人数の中で、様々な考え方に触れることが必要なのではないかという思いを持つに至った。

●登別中学校在校生へのインタビュー（地区別検討委員会主催／3月22日開催）

登別中学校在校生（1～2年生）を対象にグループインタビューを行った。インタビュー前には全校生徒を対象とした自由記述式のアンケートを行い、この結果も参考に委員からの質問形式により実施した。インタビューにおける在校生の発言は次のとおり。

①生徒数が少ないからこそ、良いところだと感じているところ

【教員との関係など】

- ・先生から細かく指導してもらえる。
- ・先生との関わり合いが深い。

【生徒間の交流など】

- ・（少人数のため）性格もわかっていて、個々人のことを理解できる。
- ・他学年との交流が多く、（他学年であっても）ほとんどの生徒がわかる。

【集団行動など】

- ・行事などで積極的に協力しあえる。
- ・学校活動する時に分担しやすいほか、行動する時に目配りしやすい。

【発表の機会など】

- ・体育授業などでは、人数が少ないため、1人が多くの回数を行うことができる。
- ・授業などで意見を言いやすい。
- ・部活動では、部員が少ないので活躍しやすい。

②生徒数が少ないことで困ることや苦労すること

【競争機会など】

- ・テストなどは人数の限られた学校内の順位なので、学力がわからない。

【交流経験など】

- ・（この学校で身につけた）コミュニケーション力が今後も使えるか不安。
- ・（部活動など）他校と交流する場面で積極的に話すことが難しく、輪に入れない。
- ・人数が増えたり、知らない人が居たりすると話しづらさを感じる。
- ・大人数がいる環境で、多くの人と交流し、視野を広げたい気持ちがある。

【人間関係の固定化など】

- ・クラス替えなどがなく、新たなコミュニケーションがないため、人間関係が固定化される。
- ・生徒同士のトラブルが生じると、グループ分けが出来てしまう。

【部活動について】

- ・部活動の選択肢が少ない（やりたい部活動ができない）。
- ・人数が少ないので、欠員が出ると大会出場が難しくなる。
- ・人数が少ないので部活動に限界がある。

【集団行動など】

- ・クラスで複数の役割が当たっていることが多く、休みなどで一人欠けると困る事がある。
- ・休みなどで生徒が欠けるとグループ活動に支障が生じてしまう。

●鷺別中学校 縣教諭との意見交換会（教育環境部会主催／5月25日開催）

室蘭市内の中学校で学校統合を経験した鷺別中学校の縣教諭を招き、統合による教育環境の変化を中心に話を聞き、意見交換を行った。意見交換会における縣教諭の話や参加者からの意見等は次のとおり。

【縣教諭の話：統合によるメリット】

- ・行事等が盛り上がり、学級間の競争が生まれ、その結果、生徒のやる気が高まって、クラスに一体感が生まれた。
- ・統合前は、和気藹々とした良さがある一方、競争的環境に欠ける面があったが、統合により、学習面でも切磋琢磨する環境が生まれた。
- ・部活動が、統合前の2部から5部に増加し、選択肢が広がった。
- ・統合で集団が大きくなることにより、大人数のリーダーを経験することができ、リーダーシップ面での成長が見られた。
- ・統合前は1学年1クラスでクラス替えも無くグループが固定化していたが、統合によりクラス替えが生じ、人間関係の幅も広がった。
- ・統合前は教員配置数が少なく、グループ学習等にも限界があったが、統合により教員配置数も増え、グループ学習など多様な学習形態が可能となったほか、研修参加が容易となり、教員の資質向上に繋がった。
- ・統合前は和気藹々とした良さがある一方、上下の人間関係に疎い面があったが、統合により集団が大きくなり、多世代間の人間関係を学べるようになった。

【縣教諭の話：統合時の対応】

- ・常に教師の目が行き届くよう、授業以外の時間も生徒達と共に過ごすなど、統合後のケアには細心の注意をはらった。
- ・通学時間については、バス通学となったため、統合前と大きな違いはなかった。
- ・校区が大きくなり、友人との交流が制約されるのではという心配があるようだが、公共交通機関を使って行動することも可能であり、友人関係が希薄となるようなことは無かったと思う。

【参加者からの意見】

- ・統合により集団が大きくなることで様々な人との交流を持て、社会性を高められるのは良いことである。
- ・高校入学時に苦労したという話はよく聞くので、集団生活を早い段階で経験するのは良いことである。
- ・大きな集団に馴染めない子どもへのケアも必要である。
- ・校区が大きくなることで学校と地域の繋がりが薄くなる寂しさもある。
- ・校区が大きくなることで休日の送り迎えが増え、保護者の負担が増える面もある。

●旧登別温泉中学校同窓生との意見交換（教育環境部会主催／6月1日開催）

旧登別温泉中学校が登別中学校に統合となった際に同校に在籍していた同窓生等を招き、統合時に感じたことなどについて話を聞き、意見交換を行った。意見交換会における同窓生等からの話等は次のとおり。

【同窓生の話：統合によるメリット】

- ・統合で集団が大きくなり、大人数の中で人間関係を作る経験を持つことができた。

- ・統合前は限られた人数の中での学校生活であったが、統合により複数のグループが存在する中での学校生活となり、女子特有の人間関係を経験できたのは後々のことを考えても良かった。
- ・統合前は先生との距離も近く、学習意欲も上がらなかったが、統合により先生との間に緊張感も生まれ、生徒間の競争もあって学習意欲が上がった。

【同窓生の話：統合時の反応・対応】

- ・統合先である登別中学校側に統合校生徒を受け入れる雰囲気もあり、友人は比較的苦勞せずに行うことができた。
- ・バス通学は特に苦にならなかった。逆に、バス停までともに下校するなど、友人と帰宅する経験ができて良かった。
- ・統合前に両校生徒の交流会が複数回開かれたのは良かった。その経験が統合後の交友関係に繋がった。
- ・統合時に既に統合先の学校の生徒会役員は決まっており、生徒会活動に参加できなかったのは残念だった。

②部会における議論について

意見交換会等の結果を踏まえて、部会で交わされた議論の概要は次のとおり。

- ・小規模校の良さを登別中学校に感じているので、統合の必要性を強く感じてはいないが、いつかは統合せざるを得ないと思っていたので、その時期が来たかという思い。100%賛成にはならないが、これからの子どもたちのことを考えれば、統合の方向性で進んでいくのがよいのではないか。
- ・小規模校のデメリットを感じる部分はあるが、中学校が無くなれば、登別地区に住む人がより少なくなってしまうのではないか。登別地区は地形的にも特殊なので、そうしたことも考えなければならないのではないか。町への影響を考えても、現在は決めかねているというのが正直な感想である。
- ・統合には賛成である。統合には不安もあると思うが、子どもたちの適応能力は高い。統合により、学習面、運動面、人間性を培う面でも必ず良い影響がある。細心の注意で子どもたちのケアを行いながら、統合の方向性に進むべき。
- ・統合には賛成である。高校入学前の段階から、少しずつ大きな社会に備えることが必要。小さな集団には特有の閉鎖性があり、その中で苦しむケースもある。旧温中同窓生の話から、統合時に特に大きな問題が無かったようで安心した。
- ・統合だけではなく、登別小学校と中学校を小中一貫教育校とし、虎杖浜地区から子どもを受け入れて、規模を維持するなど、その他の可能性も検討すべき。
- ・中学校の現状を考えれば、統合の必要性を感じつつも、中学校が無くなった後、登別地区が置かれる状況を考えれば、簡単には賛成と言えない思いもある。
- ・登別地区への影響を考えれば、統合に賛成とは言えない。まずは年限を設定して人口を増

やす努力をするなどして、それでも子どもの数が増えなければ、統合を検討すべきものと考える。

- まちづくりの面で不安はあるだろうが、統合の方向性で進むのがいいのではないか。子どもを増やすといっても、人口増加は一朝一夕に効果が上がるものではない。町の活性化策はこれまでも行われてきたはずであり、いつまで学校の状況を見守ればいいのかという思いもある。

3. 登別中学校の現状—学校小規模化の『良い面』と『悪い面』について—

現在、登別中学校は、市教委が設定した規模の目安を学校規模、学級規模の両面で下回っており、学校小規模化による影響は良し悪し両面で表れているものと考えられる。これまで実施してきた各方面との意見交換の結果から、（登別中学校で見られる）それら小規模化による『良い面』と『悪い面』は次のとおり整理される。

【登別中学校の現状：学校小規模化の良い面】

- 教員の指導がきめ細かい。
- 教員の目が行き届きやすい。

登別中学校在校生へのインタビューにおいても、「先生に細かく指導してもらえる」「先生に聞きやすい」といった声が聞かれた。

- 生徒同士の関係が深まりやすい。
- 異なる学年間の交流が深まりやすい。

登別中学校在校生へのインタビューにおいても、「個々人のことを理解できる」「異なる学年との交流が多い」といった声が聞かれたほか、保護者との意見交換においても、生徒間の距離感の近さを良い面として挙げる声が聞かれた。

- 授業や部活動など様々な場面で活躍しやすい。
- 少人数なので意見が言いやすい。

登別中学校在校生へのインタビューにおいても、「体育授業などでは、人数が少ないため、1人が多くの回数を行うことができる」「部活動では、部員が少ないので活躍しやすい」「授業などで意見を言いやすい」といった声が聞かれた。

【登別中学校の現状：学校小規模化の悪い面】

- (クラス替えが無いなど) 人間関係が固定化され、コミュニケーション能力を培うチャンスや様々な考え方に触れる機会が限られる。
- 集団が小さいため、仲違いした際に人間関係をリセットすることが難しい。

登別中学校在校生へのインタビューにおいても、「人数が増えたり、知らない人が居たりすると話しづらさを感じる」「大人数がいる環境で、多くの人と交流し、視野を広げたい気持ちがある」「生徒同士のトラブルが生じると、グループ分けが出来てしまう」といった声が聞かれた。また、保護者との意見交換会などにおいても、「統合により集団が大きくなることで様々な人との交流を持って、社会性を高められるのは良いことである」「子どもたちを見ていると視野が狭い部分があり、もう少し大人数の中で、様々な考え方に触れることが必要なのではないかという思いを持つに至った」といった意見が聞かれた。

- 人数が限られるため、学習面や運動面などで競争的環境に欠ける面がある。

登別中学校在校生へのインタビューにおいても、「テストなどは人数の限られた学校内の順位なので、学力がわからない」といった声が聞かれた。また、旧登別温泉中学校同窓生との意見交換会においても、「統合前は先生との距離も近く、学習意欲も上がらなかったが、統合により先生との間に緊張感も生まれ、生徒間の競争もあって学習意欲が上がった」との声が聞かれた。

- 体育や音楽など集団の教育活動に支障が生じやすい。
- 部活動の選択肢が少ない(現在、登別中学校の部活動は3部)。

登別中学校在校生へのインタビューにおいても、「部活動の選択肢が少ない(やりたい部活動ができない)」「人数が少ないので部活動に限界がある」「休みなどで生徒が欠けるとグループ活動に支障が生じてしまう」といった声が聞かれた。また、保護者との意見交換会などにおいても、学校小規模化のデメリットとして、部活動の選択肢の少なさを挙げる声が聞かれた。

- 教員配置数が少なく、(グループ学習など) 多様な学習形態をとりにくい。

縣教諭との意見交換においても、同教諭から「統合前は教員配置数が少なく、グループ学習等にも限界があったが、統合により教員配置数も増え、グループ学習など多様な学習形態が可能となった」との話があった。そのほか、同教諭からは、「研修参加が容易となり、教員の資質向上に繋がった」との話があった。

4. 教育環境部会における議論のまとめ

①学校小規模化による『良い面』と『悪い面』の検証

登別中学校で見られる学校小規模化による『良い面』のうち、「教員の指導がきめ細かい」「教員の目が行き届きやすい」は、小規模校のメリットであるとはいえ、小規模校以外でも指導の工夫で補い得るものであると考える。

「生徒同士の関係が深まりやすい」「異なる学年間の交流が深まりやすい」についても、家庭的な雰囲気があればこそその良さではあるが、人間関係の固定化による弊害と表裏一体の側面があり、固定化による弊害の大きさと比較した場合には、優先されるべきものか慎重な検討が必要である。

また、「授業や部活動など様々な場面で活躍しやすい」「少人数なので意見が言いやすい」については、それにより培われる面もあるものと考えられるが、子どもの成長を考えれば、大きな集団であっても意見を発表する力、活躍できる強さを身につけられる環境をこそ整えるべきものとする。

次に、学校小規模化による『悪い面』のうち、「人間関係が固定化され、コミュニケーション能力を培うチャンスや様々な考え方に触れる機会が限られる」は、子どもの成長に大きく関わる事柄であり、その後の進路を考えても優先して解決すべき事項であるものとする。

「家庭的雰囲気の良さがある反面、仲違いした際に人間関係をリセットすることが難しい」は、小規模校の良さである「家庭的な環境」と表裏一体のものであるが、問題が生じた場合の影響を考えれば、悪い面の解消が優先されるべきものとする。

また、「人数が限られるため、学習面や運動面などで競争的環境に欠ける面がある」「部活動の選択肢が少ない（現在、登別中学校の部活動は3部）」については、子どもの可能性を伸ばすという意味でも解消しなければならない事項であり、「体育や音楽など集団の教育活動に支障が生じやすい」「教員配置数が少なく、（グループ学習など）多様な学習形態をとりにくい」についても、子どもの学習環境をより良いものとする観点から何らかの対策が必要と考える。

このように、学校小規模化による『良い面』と『悪い面』を比較検証すると、『良い面』として挙げられた項目は、中規模以上の学校でも指導の工夫で補い得るものであるほか、小規模化による『悪い面』と表裏一体の側面があり、それとの比較では必ずしも優先度が高いとは言えないものである。また、現在の過ごしやすさを優先したメリットといった側面が強く、子どもの成長を考えた場合には逆にデメリットにもなり得る事項であるものとする。

対して、『悪い面』として挙げられた項目は、いずれも子どもの成長を考える

と重大な事項で、『良い面』と表裏一体の側面があり、対策によりそれら『良い面』が失われるとしても、それに優先して解消の方策を講じなければならないものとする。

②学校小規模化による『悪い面』－弊害を解消するための方策について－

その上で、学校小規模化による『悪い面』＝弊害を解消するための方策であるが、本部会においては、小中一貫教育や虎杖浜地区との連携に関しても議論がなされた。

このうち、小中一貫教育（義務教育学校、併設型小（中）学校）については、学習内容の高度化や成長の早期化、中学校進学時の躓き、いわゆる中1ギャップへの対応などを目的としたものであり、仮に登別小学校と登別中学校の枠組みを解消し、9年間の義務教育学校を設置したとしても、1学年あたりの人数は変わらず、人間関係の固定化や競争環境の欠如、集団の教育活動や部活動の縮小といった、学校小規模化による弊害は解消されないことが確認された。

また、義務教育学校を設置し、虎杖浜地区から子どもを呼び込むことで学校規模を維持するというアイデアについても、当該方策を講じるためには、学校設置のための一部事務組合設置が必要であり、白老町教育委員会がどう考えるか、また虎杖浜地区住民の理解が得られるかは不明である。また、現在、虎杖浜小学校の全校児童は24人であり、仮に一部事務組合を組織し、登別地区と虎杖浜地区を校区とする義務教育学校を設置したとしても、学校小規模化の問題は解消されないことが確認された。

このため、登別中学校で見られる学校小規模化による弊害を解消するためには、近隣校である幌別中学校との統合を第一の選択肢にせざるを得ないものとする。

③教育環境部会としての結論

上記のとおり、現在、登別中学校で見られる学校小規模化による弊害の影響は、小規模化による良い面を考慮したとしても、それに優先して解消の方策を講じなければならないものであり、且つ現在既に小規模化が相当程度進んでいることを考えれば、できる限り早期に対策が講じられるべきである。

また、保護者との意見交換会でもあったとおり、保護者には今後のスケジュールが早期に示されることを望む声が多く、そうした意味でも、単に統合の方向性を示すだけでなく、統合の時期を明示する必要がある。

よって、教育環境部会としては、令和7年度を目途に、登別中学校と幌別中学校の校区を一つにする（統合する）ことが望ましいものとする。

なお、部会における議論では、登別中学校が統合となった場合の登別地区のまちづくりへの影響を指摘する声が複数聞かれた。議論の課程では、それらの意見

にも十分配慮したが、教育環境の観点から、(部会としては)上記のとおりまとめたところである。まちづくりへの影響については、まちづくり部会で議論が進められており、今後は、地区別検討委員会本体においても、それらを含めた総合的な観点から議論がなされるものとする。

④統合の基本的条件

上記のとおり、教育環境部会としては、登別中学校の校区を拡大し、近隣校である幌別中学校と校区を一つにせざるを得ない(統合せざるを得ない)ものと考えるが、統合にあたっては、次の項目について、必要な措置を講じることを要望する。

●校名について

統合後の学校の校名については、登別中学校と幌別中学校の関係者で組織する新たな委員会で協議すること。

●校歌について

統合後の学校の校歌については、登別中学校と幌別中学校の関係者で組織する新たな委員会で協議すること。

●制服について

統合後の学校の制服については、登別中学校と幌別中学校の関係者で組織する新たな委員会で協議すること。

●通学方法・通学手段について

現在の登別中学校区からの通学には、大きく分けて2つの手法(遠距離通学費補助/スクールバス・スクールタクシー)があり、それぞれ次のようなメリット、デメリットがある。

◆遠距離通学費補助

(メリット)

- ・乗車便に幅があり、利便性が高い。
- ・路線バスを利用することで社会的経験を積むことができる。

(デメリット)

- ・降車後に徒歩を要し、通学時間が長くなる。
- ・(部活動終了後などに)バス時間を考え、急いで帰る必要がある。
- ・突発事態で下校が早まる際に臨機応変な対応ができない場合がある。

◆スクールバス・スクールタクシー

(メリット)

- ・学校まで運行され、通学時間の短縮となる。
- ・(部活動終了後などに) 急いで帰る必要がない。
- ・緊急事態(隣国のミサイル発射など) 発生時により安全性の高い対応が期待できる。
- ・突発事態で下校が早まる際に臨機応変な対応がしやすい。

(デメリット)

- ・登下校時間に選択の幅が無い。
- ・乗り遅れた場合などの対応に不安がある。

統合時の通学方法・通学手段については、上記のメリット・デメリットを踏まえて、統合決定後に組織する新たな委員会で協議すること。

●特色ある教育の取扱いについて

現在、登別中学校で取り組まれている特色ある教育に関する取組については、登別中学校関係者が要望する項目に関し、登別中学校と幌別中学校の関係者で組織する新たな委員会でその取扱いを協議すること。

●学校保管資料の取扱いについて

現在の登別中学校が保管する学校資料の取扱いについては、登別中学校と幌別中学校の教職員で組織する新たな委員会で協議すること。

●学校間の交流事業について

統合に向けた事前交流事業だけではなく、令和5年度以降、登別中学校と幌別中学校の交流事業(部活動や学校行事の共同実施など)の実施について検討すること。

まちづくり部会における議論のまとめ

1. まちづくり部会の位置付け

登別市教育委員会は、令和3年8月に、「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」を策定し、今後35年間に於ける市内小中学校の配置のあり方を示した。このグランドデザインにおいて、登別中学校については、第1期（令和年度～7年度）中に、幌別中学校と統合することが想定された。

こうした動きを踏まえて、登別中学校区では、保護者や地域住民有志により、「登別中学校の学校適正配置に関する地区別検討委員会」を組織し、登別中学校の今後のあり方や統合の是非に関し検討を進めてきた。

さらに令和4年4月以降は、委員会の下に2つの部会（教育環境部会／まちづくり部会）を設け、それぞれの観点から検討を行ってきたが、このうちまちづくり部会では、同校が統合となった場合のまちづくりへの影響という観点から、統合の是非に関し検討を進めてきた。

2. まちづくり部会における議論の経過

登別中学校は、1学年1クラスの状態が続き、さらに一部の学年では1クラス20人に満たない状態となるなど、学校規模、学級規模の両面で、登別市教育委員会による規模の目安（※）を下回る状況が続いている。

このように外形的には小規模化が相当程度進んでいると言わざるを得ない状況であることから、教育環境部会では、教育的観点から統合の是非に関し検討が進められている。

一方、学校は、地域社会でも多面的な役割を担っており、仮に登別中学校が幌別中学校と統合となった場合には、まちづくりにおいても様々な影響が生じるものと予想されることから、単に教育環境の面からだけでなく、まちづくりの面からも統合の是非に関し検討を進める必要がある。

このため、まちづくり部会では、地区別検討委員会で実施してきた意見交換会の結果などを参考にすることはもちろん、部会としても、経済関係者や観光産業関係者を招くなど、各方面との意見交換を行いながら、同校が地域で担ってきた役割を整理するとともに、仮に同校が統合となった場合の影響などに関し議論を進めてきた。

※登別市教育委員会では、学校規模については、小学校で1学年1クラス以上、中学校で1学年2クラス以上、学級規模については、1学年1クラスの場合には1クラス20人以上をそれぞれ目安としている。

①意見交換会等の結果について

地区別検討委員会や本部会で実施してきた意見交換等の結果は次のとおり。

●保護者との意見交換会（地区別検討委員会主催／令和3年12月16日開催）

登別小学校児童及び同中学校生徒、未就学児童の各保護者を対象に意見交換会を実施した。意見交換は、地区別検討委員会委員から参加者への質問形式で行った。委員の質問に対する参加者の意見は次のとおり。

（質問）登別中学校を幌別中学校に統合すること自体をどう考えているか？

回答① 地元で中学校が無くなることに抵抗感がある一方、今後、生徒数が減少していくことを考えれば、避けられないものとも理解しており、複雑な心境である。

回答② 子どもが減少していく中であっては仕方ない部分があるのも理解しているが、地元の中学校を無くすことについては基本的には反対であり、何とか残して欲しいという思いである。

回答③ 大人数の中で様々な人に関わりながら学んでいける環境が必要と思っているので、統合には賛成である。

（質問）仮に幌別中学校と統合になる場合の懸念や不安について聞かせて欲しい。

回答① 子どもの教育環境を考えれば統合には賛成だが、地域から中学校が無くなることにより新たな居住者がいなくなってしまうことを懸念している。

回答② 子どもを見ていると、非常に視野が狭いと考えさせられることが多く、統合には賛成であるが、幌別中学校までの通学手段などについて心配している。

回答④ 子どもたちが何年後にどの学校に行ってしまうというようなことをイメージしながら子育てできるように、早い時期に見通しを立てられるようにして欲しい。

（質問）規模を大きくするメリットが本当にあるのか疑問を持っている。そうした意味で、小規模校のメリットとデメリットをどう考えているかお聞きしたい。

回答① 小学校に関しては、地域色豊かな環境の中で教育を受けることはメリットだと思っている。一方で、中学校に関しては、高校進学を控える中で、環境変化に備えるという意味でも、ある程度大きな集団を確保することが必要だと思う。そうした意味で、小学校については小規模校のメリットが勝り、中学校については統合のメリットが勝るのではないかと考えている。

回答② 登別小学校の家庭的な雰囲気の中で子育てを行いたく引っ越して来たが、実際に子どもたちを見ていると視野が狭い部分があり、もう少し大人数の中で、様々な考え方に触れることが必要なのではないかという思いを持つに至った。

●登別市総務部企画調整グループ及び観光経済部商工労政グループとの意見交換会
(まちづくり部会主催/5月19日開催)

登別市でまちづくりを担当する総務部企画調整グループ、経済施策を担当する観光経済部商工労政グループの担当職員を招き、登別中学校区のまちづくりに関し話を聞き、意見交換を行った。意見交換会における部会員からの意見等は次のとおり。

【観光産業への影響について】

- ・中学校が無くなることで、観光産業の人材確保が難しくなるのではと心配している。
- ・道内の他の温泉地では学校が存続している。中学校が無くなれば、観光産業の労働力確保の競争で不利になる。
- ・一定の規模を確保しつつ、スクールバスなどで通いやすい環境が整備されれば、観光産業の人材確保の際にもセールスポイントになるのではないかと。

【登別中学校の存続について】

- ・学校を存続させるために、まだまだできることがあるのではないかと。
- ・虎杖浜地区から子どもを呼び込むことで、存続の方向で考えることはできないだろうか。
- ・登別地区は雇用の場も充実しており、統合ありきではなく、存続方法を検討すべき。

【その他】

- ・登別中学校と地域との関わりの多さに驚いている。学校と観光客が直接関わる機会が作れば良いと思う。
- ・登別中学校の特色ある取組を統合後に引き継いでいけるのかという観点からも検討が必要。

●経済団体関係者等との意見交換(まちづくり部会主催/6月23日開催)

経済団体関係者や観光産業関係者などを招き、仮に登別中学校が統合となった場合の経済や観光産業への影響に関し意見交換を行った。意見交換会における参加者からの意見等は次のとおり。

【観光産業への影響について】

- ・基幹産業である観光の雇用を支えるということと、中学校を統合することは矛盾しているのではないかと。
- ・学校が遠くなれば親の送迎の手間が増え、労働に割く時間が少なくなって、労働力の確保が難しくなる。
- ・中学校で行われてきた地域への愛着を深める取組(熊舞や鬼踊りなど)は重要で、そうした取組が観光産業の人材確保に寄与してきたものと思われる。登別地区は人材の供給地として可能性があり、登別中学校が統合となっても、そうした地域への愛着を深める取組を継続する仕組みを考えるべき。
- ・統合により、幌別地区と登別地区、登別温泉地区の心理的距離が近くなり、観光産業の労働力確保にも良い影響があるのではないかと。

【登別中学校の統合について】

- ・子どもたちが置かれている環境を見ても、統合が必要な状況にあるのは明らか。保護者の立場としては、もっと早く統合の議論があっても良かったと思っている。
- ・まちづくりの観点も重要であるが、教育環境としてどうあるべきかを第一に考えるべき。
- ・子どもには、早い段階で少しでも大きい学校で様々な経験を積ませるべき。そうすることで優秀な人材が育ち、将来のまちづくりにもプラスになる。

【定住人口への影響などについて】

- ・小学校の有無は定住地の選択に影響を与えるが、中学校の有無との関係性は強くない。
- ・これを機会に、若い世代が居住地を選ぶ基準をしっかりと議論し、まちづくりに繋げるべき。
- ・定住人口の減少は、将来的に登別小学校の存続にも影響を与える可能性がある。地域として、登別小学校はしっかりと守っていくべき。

●事業所との意見交換（まちづくり部会主催／9月1日開催）

登別地区の事業所関係者を招き、労働者の居住地や雇用の現状、雇用等の観点から見た統合の是非などに関し意見交換を行った。意見交換会における参加者からの意見等は次のとおり。

【事業所の現状について】

- ・従業員で登別地区に居住しているのは10名程度。元々少ないことに加え、特に結婚すると、幌別以西に転居してしまう印象がある。
- ・利便性の問題もあり、他地区を居住地に選ぶ傾向があるものと思われる。
- ・登別地区に寮があるが、結婚すると転居してしまう傾向がある。
- ・スタッフの子育て世代は、幌別地区や若草地区の居住者が多く、学校入学前はコロポックルの森を利用し、小学校以降は居住地の学校を利用するケースが多い。
- ・従業員のうち登別地区居住者は7～8世帯程度。独身寮は数年前廃止、社宅も本年末で廃止予定。
- ・労働力の確保という点では、就業地に住んでもらう時代ではない（居住地からの通勤が前提）。

【非常時の対応について】

- ・非常時を考えれば、就業地近くに多くの職員が居住するのが望ましい。しかし、寮を整備してもなかなか住んでもらえないので、それを前提に危機管理を行っている。
- ・登別地区に寮と社宅があるものの、なかなか住んでもらえない。このため、非常時には幌別地区等から駆け付けることになる。短時間の参集が望ましいが、仕方ないものと思っている。

【登別中学校の統合について】

- ・子どもが少ないのは残念だが、増えるとも考えにくく、子どもの成長にとってはいかなものか。まちづくりの面で学校が重要であることは理解するが、学校の現状を考えれ

ば、教育的にどうなのかという気持ちである。

- 中学校が無くなるのは悲しいが、いずれ何らかの変化はあるものと思っていたし、変えなければならないのは理解している（それが今かとなると悩ましいが）。
- 母校が無くなるのは寂しいが、これだけ小規模な学校で教育していくのは良いことなのか。人口減少時には学校を減らす方向に向かうのは仕方ないし、現在の状態を続けることが良いことなのか考えなければならない。
- 子育て世代に聞くと、人数が少ないのであれば仕方ないという意見が多い。幌別地区の学校も人数が減ってきているので、将来的にはより大きな統合があるのではないかと。

②部会における議論について

意見交換会等の結果を踏まえて、部会で交わされた議論の概要は次のとおり。

- 道内の他の温泉地では学校が存続しており、洞爺湖温泉や定山溪温泉と比べても見劣りしてしまう。特に中間管理職は子育て世代となるので、労働力を確保する際に、他の温泉地との競争で不利になってしまう。
- 中学校が無くなることで、観光産業の人材確保が難しくなるのではと心配している。一方、親の立場で考えると、ここまで学校規模が小さくなってしまっているのがはたして良いことなのかは考えざるを得ない。両面を考えれば、一定の規模を確保しつつ、スクールバスなどで通いやすい環境を整備することにより、教育環境を確保しつつ、観光産業の人材確保の際にもセールスポイントにすることが可能ではないか。
- 子どもの減少によって教育環境が悪化することが問題となるわけだが、子どもを増やして学校を存続させるため、まだまだできることがあるのではないかと。例えば、虎杖浜地区から子どもを呼び込むこともひとつの方策だと思う。
- 登別地区は雇用の場も充実しており、統合ありきではなく、存続方法を検討すべき。
- 居住者同士の繋がりに惹かれ、居住地としてこの地区を選んだという話もあった。それら繋がりを育む場として中学校が機能していたとして、仮に統合せざるを得ないとしたら、それを補完する仕組みを考えなければならない。
- 子どもの減少を考えれば、統合のメリットが間違いなくあることは理解する一方、まちづくりへの思いが強い地域でもあり、仮に統合になるにしても、分断を生まないよう慎重に議論しなければならない。
- 現在でも登別地区の人口は減少に向かっており、さらに中学校が無くなってしまえば、居住地として選ばれなくなり、さらに人口減少が進んでしまう。
- 学校はまちの基盤という側面があるので、まちづくりの面で考えれば、統合には反対とらざるを得ない。
- まちづくり部会としては統合に反対の意見が大勢を占める一方、教育環境部会は統合を容認する方向で進んでおり、両部会の妥協点を探らなければならない。
- 義務教育学校を設置したとしても、同学年の人数が増えるわけではないので、小規模化の

- 弊害の解消には繋がらないとのことだが、縦のボリュームで解決できることはないのか。
- 1学年2クラスが必要ということであれば、1学年あたりの人数を40人にするよう取り組まなければならない。
 - 虎杖浜地区から子どもを呼び込むことは、制度上もハードルが高く、また、虎杖浜地区自体の人口が少ないということもあり、小規模化の解決策にはならないとのことであるが、少しでも人数が増えるのであれば、その他にも様々な方策を組み合わせることで、1学年40人を確保することはできないだろうか。
 - 仮に統合となった場合に、跡地をどのように活用していくかということも話していかなければならない。
 - 跡地利用の話をする、まちづくり部会としては本末転倒になってしまうが、統合になった時のことも考え、跡地利用に関しても並行して議論していかなければならない。
 - 登別中学校存続のため、生徒数の増加に向けて、地域活性化策に取り組まなければならない。
 - このままでは人口減少はさらに深刻化し、将来的には登別小学校の存続も危ぶまれる状況になってしまう。

3. 登別中学校の統合によるまちづくりへの影響などについて

これまで実施してきた各方面との意見交換の結果や部会での議論などから、学校統合によるまちづくりへの影響、学校存続に向けた方向性などについては、次のとおり整理される。

【観光産業への影響について】

- 観光産業における人材確保が難しくなることが懸念される。
- 他の温泉地との人材獲得競争で不利になることが懸念される。

観光団体や経済団体との意見交換においても、観光産業の労働力確保に悪影響が生じる懸念が聞かれた。部会における議論でも、同様の意見が聞かれた。

【定住人口への影響について】

- 学校はまちの基盤であり、義務教育校の一角が無くなることで、人口減少に拍車がかかることが懸念される。
- 中学校が無くなれば、若い世代から居住地として選ばれなくなり、いっそう人口が減ってしまうことが懸念される。

観光団体や経済団体との意見交換においては、小学校の有無は定住地の選択に影響を与える度合いは高いものの、中学校に関しては必ずしもそうとは言えないとの声が聞かれた。一方、部会における議論では、中学校が無くなることで、人口減少に拍車がかかり、地域の活力が衰えてしまうことを懸念する意見が聞かれた。

【登別中学校の存続について】

- 中学校存続のためにまだまだできることがあるのではないか。
- 中学校の規模の目安を満たすために、生徒数を1学年20人増やさなければならぬのであれば、そのための方策を考えなければならない。
- 登別中学校存続のため、地域活性化に取り組まなければならない。

人口増加策の面で、登別中学校存続のためにまだまだできることがあるのではないかとの意見があり、規模の目安を満たすために1学年20人増やすことが必要であれば、そのための方策を考えなければならないとの声が聞かれた。また、登別中学校存続のため、地域活性化策に取り組まなければならないとの意見が複数聞かれた。なお、部会における議論では、虎杖浜地区から子どもを呼び込むことで、生徒数を増やせないかとの議論がなされたが、登別市教育委員会としてそのような方針は持っていないとの考えが示された。

【登別中学校の跡地利用について】

- 仮に統合となった場合に、跡地をどのように活用していくかということも話していかなければならない。
- 統合になった時のことも考え、跡地利用に関しても並行して議論していかなければならない。

跡地利用の話は統合に反対する立場とは相反することから、それに関する具体的な議論は無かったものの、仮に統合となった場合に、跡地をどのように活用していくかということも話していかなければならないとの声が聞かれた。また、跡地利用に関しても並行して議論していかなければならないとの意見もあった。

4. まちづくり部会における議論のまとめ

①学校統合によるまちづくりへの影響

学校は、子どもたちの学びの場であるのはもちろんであるが、地域社会においても様々な役割を担っており、仮に登別中学校が幌別中学校と統合し、この地区から義務教育校の一角が無くなれば、まちづくりの面でも影響が生じることが懸念される。

地域から中学校が無くなることで、若い世代に居住地として選ばれなくなってしまうことが懸念されるほか、まちの基盤としての学校が無くなることで人口減少に拍車がかかり、いっそうの衰退を招くことも予想されることである。

また、温泉地区の観光産業に従事する労働者の一定割合は、現在の登別中学校区に居住しているものと考えられるが、この地区から中学校が無くなることで、労働力の確保に支障が生じることが懸念される。

②登別中学校の存続について

登別中学校の統合により、まちづくりに影響が生じるとの懸念があるが、生徒数の減少が進む中であって、同校の存続を図るためには、生徒数を増加させるための方策＝地域活性化策に取り組むことが必要である。

これまでも登別地区の活性化については、様々な取組がなされてきたが、(上記のとおり)生徒数が減少する中で学校存続を目指すためには、生徒数の増加に向けた実効性のある取組を進める必要がある。

③登別地区の地域活性化策(人口減少対策)について

登別地区の地域活性化策(人口減少対策)を検討するにあたっては、まちづくりの観点から広範な議論が必要である。しかし、現在の地区別検討委員会は、あくまで登別中学校の今後のあり方や統合の是非を検討する協議体であり、事務局についても、(まちづくりや経済の担当部局ではなく)教育委員会が務めるなど、地域活性化策を議論するには限界があるものとする。

このため、地域活性化策(人口減少対策)を検討するにあたっては、まちづくり関係者を中心に、地域活性化に特化した新たな協議体を組織し、必要に応じて、市の担当部局の協力を得ることが必要である。

④まちづくり部会としての結論

上記のとおり、登別中学校が幌別中学校と統合し、登別地区から義務教育校の一角が無くなれば、まちづくりに大きな影響が生じるものと懸念される。

一方、登別中学校の生徒数の現状を考えれば、同校の存続を結論づけるにあたっては、生徒数の増加を図り、学校規模の基準を満たすなど、存続を可能とする環境を整えることが必要である。

これらのことから、まちづくり部会としては、登別中学校と幌別中学校の統合に反対し、同校存続のために、児童・生徒数の増加に向け、地域として、登別地区の地域活性化策(人口減少対策)に実効的に取り組むことが必要と結論づける。

なお、地域活性化策(人口減少対策)の検討にあたっては、まちづくり関係者により新たな協議体を組織し、市の担当部局の参加も得ながら、具体的な取組を進めることが望ましいものとする。